

令和2年4月27日

国民の皆様と医療およびケア・サービスに携わる全ての方々へ
—新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受けて—

一般社団法人 日本医療・病院管理学会

2019年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、世界的な流行へと拡大して2020年3月11日にはWHO(世界保健機関)が「パンデミックとみなせる」と宣言するに至りました。わが国でも、2020年1月14日に肺炎患者の第1例目が報告されたのを皮切りに、大都市圏のみならず地方においても多数の患者が発生しています。政府は同年4月7日に新型インフルエンザ等特措法に基づく「緊急事態宣言」を発出し、東京都を含む7都道府県に外出自粛を含む緊急事態措置を実施致しました。さらに、4月16日には同宣言を全都道府県に拡大しており、流行の収束が見通せない中で「医療崩壊」の懸念が現実のものとなってきています。

そのような中、医療現場で対応している医師や看護師などの医療職はもちろんのこと、それを支える様々な職種、例えば医療施設の設備を管理したり、リネンや医療材料などを手配し現場に供給したりする部門、さらには事務管理部門の方々など、多くの職種・職員が必死の思いで業務に取り組んでいます。さらに、病院の中で委託業者として業務に携わる人々も、普段とは比較にならない強いストレスに晒されながら、医療関連サービス業者として懸命に業務にあっているものと思います。加えて、医薬品や医療材料の供給など、多くの業種の人達が病院を外から支えていることも忘れてはなりません。また、保健所など衛生行政に携わるの方々には、夜遅くまで休日返上で対応に忙殺されており、これらの人々の誠実で献身的な努力に対して心から敬意を表するものです。

日本医療・病院管理学会は、病院の管理運営を理論と実践の両面から科学的に追求し、日本の医療の発展に寄与するために1963年に設立されました。その後、医療は病院と地域との連携の中で捉えるようになり、病院のみならず地域や国全体の医療サービスの質と効率を高めるべく、医療制度や医療政策、さらには保健・福祉領域とも関係させながら研究する分野として発展してきました。そして、本学会の特徴はその会員構成にあると考えており、医師・看護師の他にコ・メディカルとされる多様な医療職、事務管理を担当する病院職員、また病院の建築・設計や施設・設備管理の専門家、および医療制度・政策等の研究

者なども参画していて、医療に留まらないヘルス・ケア・サービス全体を支える多種多様な職種・業種を背景に持つ会員で構成されています。

このような特徴を持った本学会としては、この度の医療現場の深刻な状況を踏まえつつ、必死の努力で対応にあたっている職員の安全と健康管理を十分に保てる環境を、速やかに整備するための支援を関係機関には強く要請したいと思います。そして、国民の皆様に対しては、今後の生活への不安が増す中ではありますが、医療崩壊が進行しないように一人一人が感染防止対策を徹底して、不要不急の外出を控えるなどの協力を改めて呼び掛けるものです。また、新型コロナウイルス感染症に立ち向かっている保健・医療・福祉に関わる全ての人達を、偏見や差別することなく支えていただきたいと思っています。そのうえで、この感染症と戦っている現場の方々、またそれを支えている関係の皆様においては、まずは自身の安全を確実なものとしながら、国民の信頼に応えるべく冷静で誠実なる対応を心から願います次第です。

最後に、新型コロナウイルスによる感染症で命を落とされた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、今までの社会のありようを一変させるかもしれない今回の事態が、一日も早く終息することを心から願っております。